

# インドネシア：政策金利を0.25%引き上げ 金融引き締めで足元の物価高に対応

インドネシア中央銀行（BI）は8月23日の金融政策決定会合において、政策金利を0.25%引き上げて3.75%にすることを決定しました。2018年11月以来の利上げとなります。BIの動向、市場の反応および今後の見通しについて解説いたします。

## ▶ 2018年11月以来の利上げを決定

- BIは8月22、23日の両日にわたり定例の金融政策決定会合を開催し、政策金利である7日物リバースレポ金利を0.25%引き上げて3.75%としました。2018年11月以来の利上げとなります。大方の市場参加者は政策金利の据え置きを予想していたため、今回の利上げはサプライズとなりました。
- BIは会合後の声明で今回の利上げは、補助金対象外の燃料や価格変動の大きい食品価格の高騰によるインフレ進行を予防し、通貨ルピアの安定化を図るためと説明しました。
- これまでBIは新型コロナウイルスの感染拡大で落ち込んだ景気を回復させるため、低金利政策を続けてきました。しかし、8月1日に発表された7月の消費者物価指数が前年同月比で4.94%の上昇となるなど世界的な資源や食料の高騰のあおりを受けており、今回の利上げで金融引き締めに動きました。

## ▶ 市場の反応と今後の見通し

- 今回の利上げは市場の予想外でしたが、発表はポジティブに受け止められました。23日の株式市場は上昇、為替についても上昇しました。債券市場では短期国債の利回りは上昇する一方で、長期国債の利回りは低下し、イールドカーブは平坦化しました。（ジャカルタ総合指数は前日比+0.8%、10年国債利回りは前日比-4.6bps）
- インフレ率は当面高い水準で推移すると見えています。BIは総合インフレ率（ヘッドライン・インフレ率）が中銀目標レンジの2 - 4%を今年のみならず来年も超える可能性があるとも指摘しており、インフレ動向には注視が必要と考えています。当社は年末までに更に0.5%の利上げの可能性があると考えています。（なお次回の金融政策決定会合は9月に開催予定）

【金利と債券利回り】 政策金利とインドネシア10年国債利回りの推移  
(2017年1月2日～2022年8月23日)



出所：Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

【株式】 ジャカルタ総合指数の推移

(2017年1月3日～2022年8月23日)



出所：Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

英国ブルーデンシャル社は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルデンシャル・ファイナンシャル社、および英国のM&G社の子会社であるブルーデンシャル・アシアランス社とは関係がありません。

<当資料に関してご留意いただきたい事項> ○当資料は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社が、情報提供を目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。また、特定の金融商品の勧誘・販売等を目的とした販売用資料ではありません。○当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしもその正確性、完全性を保証するものではありません。○当資料の内容は作成日時点のものであり、当社の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、将来予告なく変更されることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。○当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。○当資料では、個別企業や業種・テーマに言及することがありますが、当該企業の株式や業種・テーマについて組入の保証や売買の推奨をするものではありません。○当社による事前の書面による同意無く、本資料の全部またはその一部を複製・転用並びに配布することはご遠慮ください。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第379号／加入協会 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

220824(01)

(1/1)